Well-Beingの向上を目指す
加古川市の取組

2024年3月25日

加古川市 企画部 政策企画課

課長　藤田 耕平

本日、お話させていただくこと

① これまでの加古川市の取組

- 幹部職員向け研修（R5.2.20）
- OASIS研修（R5.10～R6.2）
- 調査結果の活用

② これからの取組

- 職員の技能向上
- 地域幸福度調査の単独実施
- 「EBPM」的な考え方の浸透

加古川市まちの魅力発信キャラクター　かこのちゃん

兵庫県 加古川市について

人　口:256,931人
世　帯:109,079世帯
総面積:138.48㎢
（令和5年4月1日時点）

加古川市の地理的特性

- 一級河川加古川の河口部に位置し自然を満喫できる
- 播磨地域の工場地帯の一部を構成
- 神戸や大阪、姫路に短時間でアクセスできる

加古川ならではの魅力づくり

- 身近な自然を活かした魅力づくり
- 産業誘致
- 駅周辺等の拠点の新たな賑わいづくり

棋士のまち

加古川和牛

かつめし

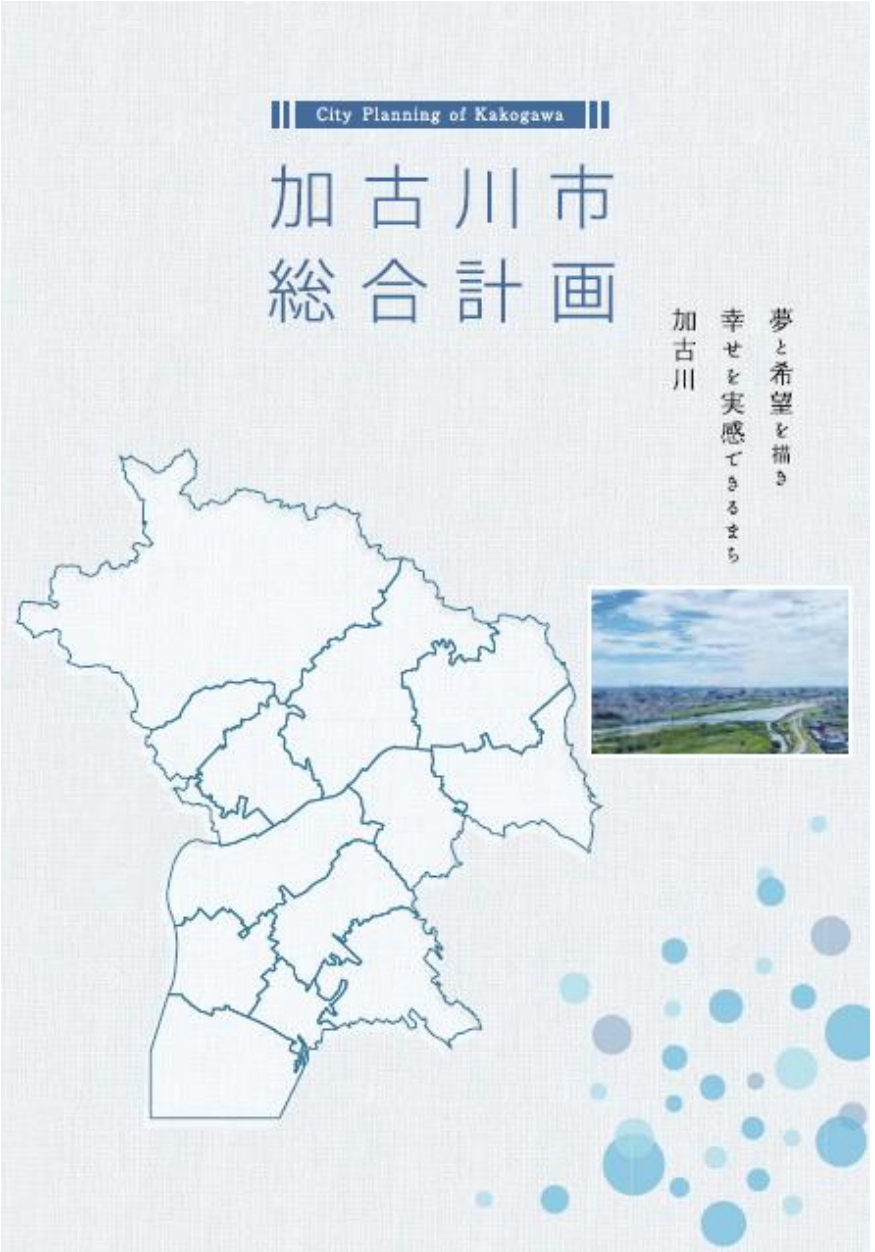
鶴林寺

高御位山

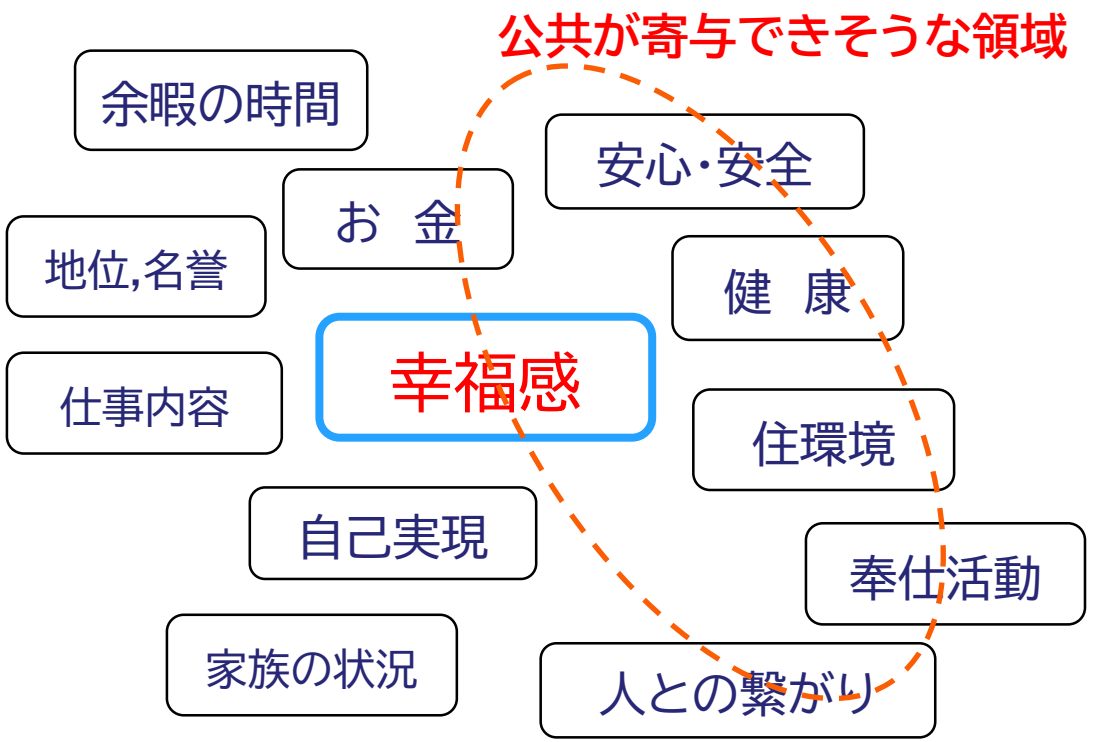
加古川市総合計画（R3～R8）

将来の都市像

夢と希望を描き
幸せを実感できるまち
加古川



市民が感じる幸福感の向上を目指す（市政運営の理念）



Well-Being指標

の活用へ

幸福感やそれに関係する構成要素を
定量的に評価できるかどうかが肝要

取組（1） 幹部職員向け研修

SDGs未来都市 KAKOGAWA

●目的

Well-Being指標の活用に関する理解促進と知識向上

●対象

幹部職員約80名

●日にち

令和5年2月20日

これからの市の姿勢について、改めて幹部職員と共有し、意識醸成の機会となった。

研修会の様子

取組（2） OASIS研修

SDGs未来都市 KAKOGAWA

●目的

Well-Being指標を活用した施策立案手法の習得

●対象

課長級職員10名　外

●期間

令和5年10月～令和6年2月（全6回）

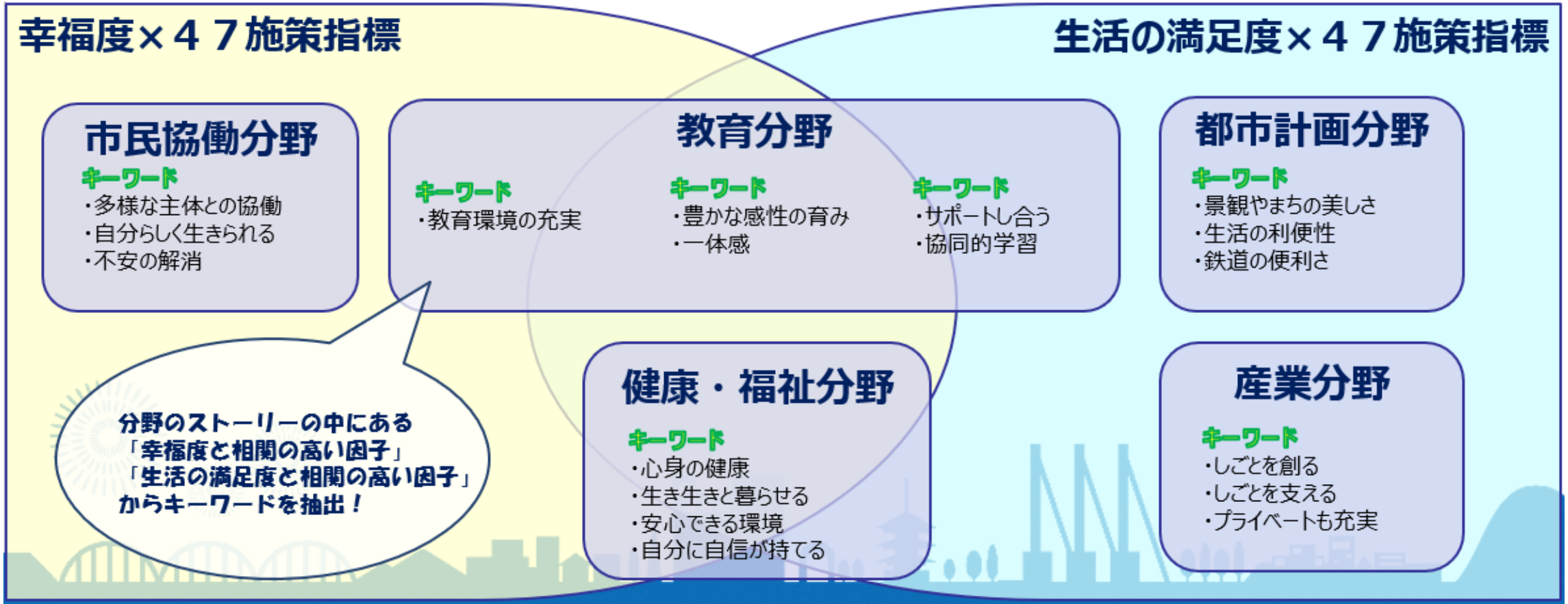
各班ごとに、ダッシュボードの情報を分析し、設定したペルソナ（市民）の幸福感向上のための取組を検討する中で、ノウハウや考え方を学んだ。

研修会の様子

取組（3） 調査結果の活用①

●令和4年度市調査結果の活用

『幸福度・生活満足度×47施策の満足度』の相関分析から、市の展開する分野の中で、幸福感や生活の満足感と結びつきの強い分野を抽出。



取組（3）　調査結果の活用②

●令和5年度全国調査結果の活用

SCI様の分析ツールから幸福と相関のある（相関係数0.4以上）の分野を確認。

住宅環境（0.46）

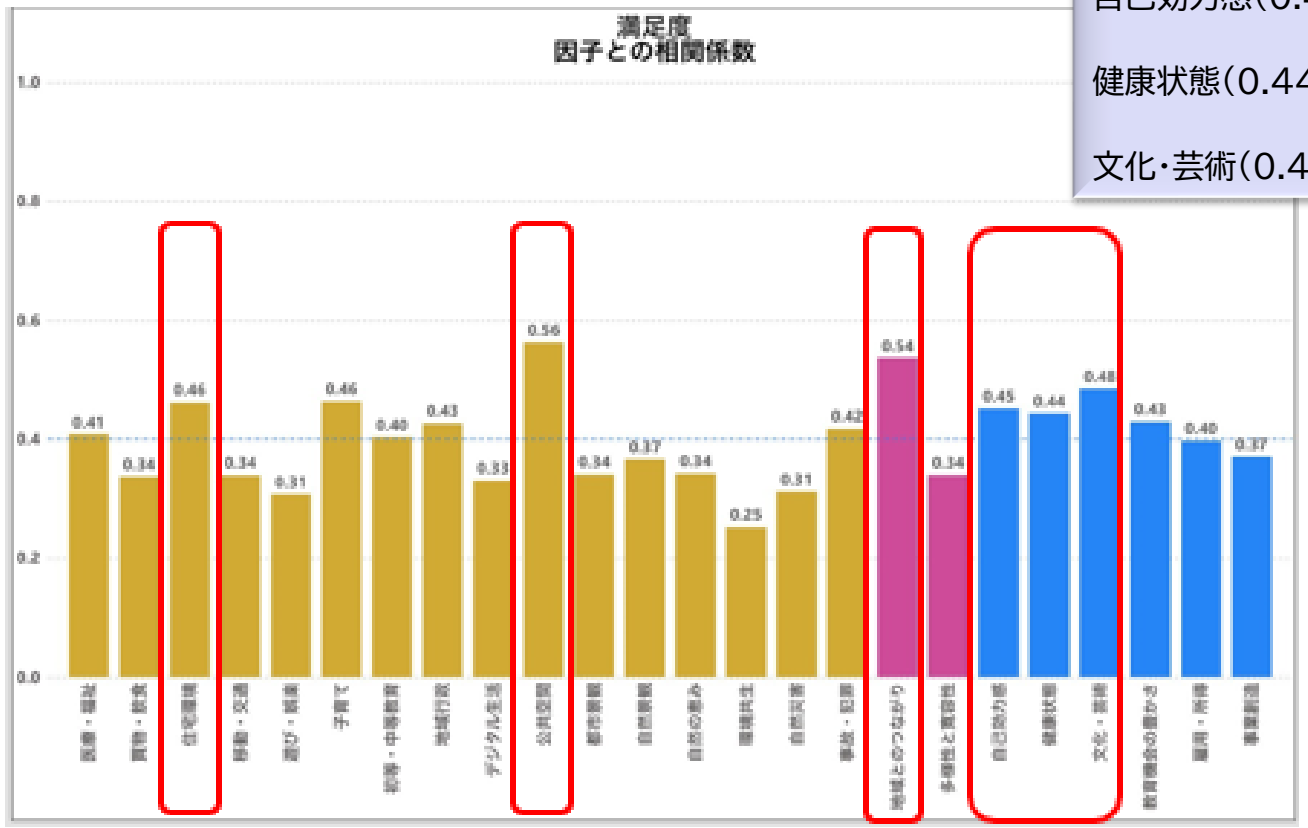
公共空間（0.56）

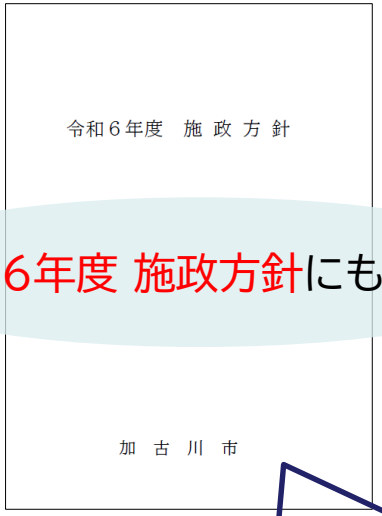
地域とのつながり（0.54）

自己効力感（0.45）

健康状態（0.44）

文化・芸術（0.48）





令和6年度 施政方針にも記載

本市では、従来から継続してきた市民意識調査に加え、昨年度から市民の幸福感や暮らしやすさを測定できるウェルビーイング指標を全国に先駆けて導入しています。その結果から、本市では「健康状況」や「地域とのつながり」、「文化・芸術」、「公共空間」などといった因子が、市民の幸福感と相関が強いことがわかってきました。引き続き、幸福感の測定を続けるとともに、様々な因子との相関関係を分析し、施策に反映していきたいと考えています。

これからの取組

SDGs未来都市 KAKOGAWA

■OASIS研修（2回目）

- 受講対象の階層を変えて受講することで、Well-Being指標を活用した施策立案手法や考え方の、更なる浸透を図る。

【目的】実務担当者の階層にも考え方を波及　→施策立案における議論レベルの均衡化

■地域幸福度調査を単独で実施　・　調査結果を施策立案へ活用

- 令和4・5年度と毎年実施している市民意識調査にWell-Being関連の設問を追加する形で実施してきたが、令和6年度からは、個別の調査として実施

【目的】2つの調査の目的明確化

●市民意識調査：総合計画の進行管理　　●地域幸福度調査：施策立案・モニタリング

- 従来のPDCAサイクルにおける施策立案スキームの中で、調査分析結果を活用した仕組を構築

【目的】「EBPM」的な考え方を組織に浸透